



〈研究〉マーシャル博士第八十誕辰に際しての業績の回顧 : 附, 佐原教授譯『マーシャル産業貿易論』評

高島, 佐一郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 35(3):437-450

(Issue Date)

1923-09

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053588>



研 究

マーシャル博士第八十誕辰に際しての業績の回顧

附、佐原教授譯『マーシャル産業貿易論』評

高 島 佐 一 郎

- 一、我が國經濟學界に見られたる一盛事。
- 二、アダム・スミス生誕第二百紀念の意義。
- 三、スミスよりマーシャル博士へ、——マーシャル第八十誕辰祝賀の意義。
- 四、我が國に於けるマーシャル「經濟學原理」の紹介及び翻譯。
- 五、我が國に於ける「同産業及び貿易」の一頂點の研究及び翻譯。
- 六、同譯書に對する三四評言。
- 七、マーシャル博士とビグー教授、——厚生經濟學と社會政策。

は し が き

あらためて釋明するまでもなく而して本文を一讀される方々の看取せられるであらう如くに、本文前半即ちマーシャル博士中壽賀を回想して其の業績を回顧した部分及び同結語と、同第五、六節即ち其の近業の邦譯に關説された部分とは別箇のものであり、謂はば化合ではなくして混合と看做されるべきものであらう。ただ自分は、最近十年このかたマーシャル原論が本邦經濟學研究上の一大指針たりしがやうに、この近業また「今後長く予等の研究に資料を供し刺激を與ふるべきは明かである」

(上田博士)事を信するものなるが故に、従つて邦譯書の刊行を雲烟視するを得ず、よつて本文前半の所説に對する脚註的客論ならしむるの意味において兩者を併せて記す事としたのである。之がザヤスチファイされるなら、幸ひである。

一

譬へていへば、「死諸葛走生仲達」の一警句は、去る六月我が國經濟學界に目睹せられた一盛事——アダム・スミスの「フィニックス」の如く復活し來れるところ有らゆる生ける西歐經濟學者暫らく影を其の背後に潜めた——を形容するに妥當するものではなからうか。即ち一九二三年六月、この近世經濟學體系の創設者の生誕二百年の記念さるるや、經濟學研究の多數學府が或は講演會或は特別刊行物の形ちを通はしてスミスに對する限りなき尊敬を披瀝せる其の半面において、現代に生ける經濟學上の諸先達殊に其の最高頂に立つマーシャル博士すら閑却せられ、更にまたスミス業績を評傳すべく我が學界の諸家が概ね第一源泉において其の論材資料を掘み來られたるの餘り、かのスミスに關するマーシャルの重要論考二〇 (Marshall, Principles of Economics. Appendix. B. Do., Industry and Trade. Appendix. D.) すらも一顧を與へられざる事を見出したからである。宛がら死せる孔明生ける仲達を走らせるの觀ある此の現象は、吾人に何物かを示唆する所がないであらうか。

二

勿論、スミスの精神諸學社會諸學への貢獻、即ち經濟學上の業績は更にも言はず哲學倫理學社會

學上の其れにも眞とに偉大なるものがある。故に其の復活するや、正に其の學問洞察經綸の自から固有するフイニックス的要素實力によりておのづから甦れるものであり、從つて世の論客が這般更めてスミス業績を回顧し論攻し惱悅したるも、其は既に斯く自力をもつて甦生せる其れを受身に捉らへ以つて禮讃を新たにしたものにすぎぬ。然かり、當時京童達が反マルクス論戰の一側面的表現などと蔭げ口せる如きは全然謂はれなき所であつて、却つて其が何んら政策的意味を交へざる純學問的企畫なりし事、而してよし實際的意義ありしとするも其は經濟政策上「實に日本の實狀に顧みて彼れから學ぶ所太だ多し」とせられての試みなりし事は一點疑ひのない所である。そうだ、微力自分の如きも其の當時公刊せられる筈だつた一文（商業經濟論）
（義・創刊號）に於て、今から想へば寧ろ感傷的な時代錯誤的など自から苦笑せらるる底の詠歎の言葉を書き綴れるのであつた。が然かし深く省察するまでもなく、スミスと吾等との間には何物かが挟まつてゐる。其れは世相に於ける無前の急轉を示しつつ汪洋と流れた一世紀半と云ふ時代であらうか？否な、世相中、とりわけて經濟と云ふ近世文化に益々切要な關係を織りこみ來れる現象其のものに對する視角の相異ではなからうか？勿論、ラスキン等曾つて唱へ而して近かくラッセルが明確に個人惡の一根元を衝ける、夫の獲得・支配・所有慾を根絶し又代ゆるに創造的衝動本能を盛んならしむるによる人心改造本能變革を策するの業は、數世紀の長さをもてするとも容易くはない、が、經濟と云ふ現象に對する人心視角には、既に可なり重要な變化の生じつつある事は同時に争ひ得ない。例示すれば右の相異は、スミスにあつては自己の生活狀態を改善せんとする各個人の自然的努力及び自然的自由てふ二原則から營するべしとせ

られた謂はゆる經濟人の經濟なるものが、輒近に至つてはラテナウの言へる「經濟は今や既に個々人の私事たるべからずして寧ろ全體の公事たるべき」事の (Ratenau, Von (kommanden Dingun)) 漸く承認せられんとする其の人心の變轉に存するのではなからうか？而して社會制度殊に經濟制度が漸く此の方向に展進しつつある事は明白な事實である。

かく觀するに於て吾人が今、スミスの學問なり思想なり經綸なりの偉大さを回顧し禮讃するとも、そは、其の理論其の政策觀を其の時代において把握した上での、換言すれば「觀念の發展過程に於ける特殊の一時期又は階段の表現として」捕捉した上での興味に外ならぬのであつて、之を生きてゐる現代に於て把持し評議した上での其れではあり得ない、否な、流されたるもの豈獨りスミスに限らるべき、爾後の經濟學徒皆悉く時代の波に流され了はる。が、そが毫も是等思想家の偉大さを傷け能はぬことは言を俟たぬ。何故なれば、いかなる巨人とても其の思索研究の對象にして其のものの自から生動する所の社會現象たるの限りに於いて、早晚凡そ此の運命を甘受すべきであるからだ。而して此の場合、彼等は捻華微笑しつつ「吾能料生、不能料死故也」と輕ろく一撓し去ることであらう。

三

そこで本文の狙つてゐる一結語がくる。それは、上記の謂はゆる盛事がとり行はれた後とでは、純理、時論はた政策觀上の指針から言つて須らく、現代の空氣中に漂よひ現代の人心を指導しつつ

ある碩學の業績即ち昨年の一夏日に來れる而かも今日まで其の紹介すら閑却されてゐる博士アルフレッド・マーシャルの第八十誕辰が回想され而して其の業績回顧が試みられて然かるべきだと云ふ事である。まさに八十一年前倫敦に生まれ先づ牛津大學の講師たり次いで四分の一世紀劍橋大學に於ける名譽たかき經濟學教授の椅子を占め研盡論盡せざるなき斯學の使徒、高き理想美はしき情操の把持者として衆望を蒐められた同博士は、唯だ古色蒼然たる同國古大學の學風學制の存するあつて、かのシニモラーの如く其の直弟子をもつて内外國諸學府に遍ねからしむるの業を作し得ざりしやうに見えるけれども、其の劍橋教授時代（一八八五—一九〇八年）及び隱退後に亘つて著作せられたる『産業經濟學』*Economics of Industry*. 1892—1st ed.、『經濟學原理』*Principles of Economics*. 1890—1st ed.、『産業及び貿易』*Industry and Trade*. 1917—1st ed. の三大著—若し更に附加すべくんば其の最近業『貨幣信用及び商業』*Money Credit and Commerce*. 1923. —の數版及び其の外國語譯版を通じて、そが學的指導感化を世界の隅々まで行き交らせた事は更めて説くべきには餘りに世上周知の所にかかる。

而して之が消息は昨年（一九二二年）七月二十六日、マーシャル博士の八十年生誕記念日に際し、王立經濟學協會員より呈された中壽賀詞殊に廣く網羅せられた其の署名者の顔振れから、たやすく推知し得られる。其の文に曰ふ、「貴下第八十回誕辰にあたり、下名等—吾等の多數は貴下曩きの門弟にして而して更にまた吾等の全部は貴論著を景仰措かざる學徒たり—は敢へて短きも心からなる賀狀を呈せん」とす。貴下は抽象的觀念もて克く具象的事物の真相を徹視し、お體裁的皮相的なる一切の表現を回避して眞を把握し而して苟くもより善きものの檢討が剩されるとき

單なる善の階段には曾つて満足せられずして、其の長き生涯を縱申して常に唯一目標を抱だきつつ至高至純なる學問的理想を把持せられた。年若きものには靈感を而して其の長せるものには高級な助言暗示開發を與へられた。而して劔橋大學經濟學部はまさしく貴下の所産にかかり、更に勞働調査委員會、通貨調査委員會其他多數の調査會に列らなつて貴下は國家經綸に獻替せられ且つ經濟學内容を豐饒ならしめた。けれども、本詞の署名者一同悉く一致して特に敬意を表せんとする所のものは、實に純理經濟學に於ける研究方法上の棟梁とし又た其の至難なる學的領域の開拓者としての貴下の示された努力精進而して雄渾なる業績に外ならぬ。英國經濟學者は貴下の存するによつて始めて、かのアダム・スミス、リカルド、ミル其他の斯學先達の遺された壯大なる傳統法燈を繼ぐべき一指導者を所持した事を廣く外國の學究學僚間に誇り得るのだ。感謝と敬愛をもつて吾れらは、貴下の替はりなき精力多幸なる日常及び學問上の銳感を衷心祈願して已まぬものである。」と。

(“Dr. Marshall's Eightieth Birthday”, *Economic Journal*, September 1922 number.)

之が署名者中には Viscount Haldane of Cloan, Earl of Balfour などを、William Ashley, B. stable, Cannan, Chapman, Edgeworth, Nicholson, Piguon, W. R. Scott 等の英國諸教授, Taussig, Carver, Fisher, Hadley, Seligman 等の米國諸教授、而して希臘の Andréades、獨逸の Brentano、佛蘭西の Gide、埃國の Schumpeter、瑞西の Bauer、瑞典の Cassel 等の諸教授を中堅とし、更に J. N. Keynes 及び J. M. Keynes 以下のマーシャル直門弟を網羅してゐる。之に對してマ博士は其の翌日、賀詞贈呈の代表者ジョン・メーナード・ケーンズ宛てに斯う答へた、「第八十誕生日にあたつて賜はれる賀詞は予を感謝と滿悦との裡ちに浸らせた、それは慇懃懇篤分に過ぐるも

のあるを覺えるけれども、併し予は諸家の厚志厚情の一滴をだに喪失したくない。思ふに事實上而して本質上から云へば其の研究範圍には殆んど變化なきものだらうけれども、有らゆる學問はそれを研究するの長く深くなりゆくにつれて其の研究領域亦た益々擴大され行くやうに見える。併しながら經濟學にて研究せらるべき對象其のものは絶えず發達生長する、だから將來の學徒は、其の先輩のに比較せられては其が研究せらるべき方法に關して一層精確なる概念を所有すべきと同時に一層廣汎な研究領域を耕すべきであらう。聞く、支那人はいたく祖先を崇拜すると、けれども經濟學の此の一老學究は寧ろ其の反對に、若き學者たちが臆がて成就し來らんとする其の業績を翹望し而してそれを尊敬したいのだ。若しそれ、來るべき時代の經濟的諸問題を把握すべき途上に若き學究たちを押し進めるべく、幸ひに何物かを寄與したとせらるるならば、それこそ予の爲し得た何ものにも優れて價值ある仕事である。而して此の方向に若干の足蹟を印したと云ふの想ひに慰められて、平和に予の晩年を送り得ることだ。」と。

右の答詞が物語るが如うに、博士は尊むべき謙讓の裡にも老來して毅然たる意氣の益々高潮し來れるを示めてゐる。而してそれは本當である、何となれば「平和に晩年を送り得る」と結びながら、中壽を迎へた此の耆宿は、既に其の翌月には、一八九〇年以降の計畫を微塵もみださざる生ける證據「貨幣信用及び商業」の序文を起草されてゐたのであり、否な進みても、一つの業績の――社會政策上の――進歩に言及したとひ今や老齡が予を壓迫し來るを痛切に感じ居れりとは云へ、社會的進歩の可能性に關して予が曩きに結構したる若干の概念・學的展開を近き將來に於いて公刊し

得べしとするの希望を抱懷しをらるるにあらず。」(Marshall, Money Credit and Commerce, Preface vi.)と壯者の如くに言ひきつてをられるからだ。

四

マーシャル博士中壽賀にちなんで感想を斯く綴り來れる自分は、素とより、此の機會を利用して同博士の純理經濟學上の特徴とか又た經濟政策社會政策上の中心思想とかを物語らんとする意圖を有せないし又た爾かなすの權利を有せぬ。何となれば、今は既に殆んど其の必要なからしめられてるからだ、同博士の高揭せられた學燈は本邦少くとも二三の先覺あつて具さに我が學界照明の資料たらしめられて既に業に年あるからだ。即ち、其の大著經濟學原論は先きに福田博士によりて十分に紹介され又た「有らゆる方面より精査論盡せられ」たるあり、更に近かく大塚教授の譯筆あつて「譯文の原文に於ける關係の殆んど理想的なる事」の銘刻せられた、忠實綿密なる好譯書の公けにせられ(明治四〇年乃至大正三年、福田博士著『改定經濟學講義』及び『續經濟學講義』、大正八年、大塚金之助氏譯、福田博士訂補『マーシャル經濟學原論』)次いで其の近著『産業及び貿易』中、かの前著にありては觸れられず而かも其の經濟政策兼ねて社會政策上の最も高潮せられた提言として極めて重要視せらるべき一章——第二版以後の原本にありては第三篇第十四章及び附錄第十六——は上田博士によりて簡素に紹介評騰せられて(上田貞次郎博士著『社會改造と企業』、社會主義的産業組織に對するマーシャル博士の批評。)ゐるからだ。姑らく前者に就いて一言すれば、大塚教授金玉の譯文が第五篇の大部分第六篇の一部分及び附錄全部に及ばざりし事を遺憾とし、最近二年このかた右の部分につき吾が學生たちと研究を續行してゐ

る關係上、吾人は同氏歸朝後速かに之が完譯全譯の業に従はれるべき事を特に望んで已まぬ次第である。

五

が、次いで『産業及び貿易』に至りては事情全く異なる。上述せるが如く其の政策觀における最高頂の一つが上田博士によりて踏破せられ又た筆者自身も企業形態經營に關する一篇（拙著『金融經濟の諸問題』第二篇）に於いて可なり詳密に同書の一角を紹介したのであるが、而かも其の有する重要さは之が完全なる邦譯刊行を十分値ひするものだからである。而かも此感は、筆者三年の外遊を了へ倫敦より歸朝の途に上げれる其の前日（一九一九年九月八日）態々出版元マクミラン會社に赴いて新刊早々の此の一書を求め、次いでそが、祖國の土踏める十月二十八日に至る五旬に亙る海上讀書の中心をなせりし往事を回顧するこそ、層一層痛切ならざるを得ない。私事を綴れる罪は深くお詫びする事として、筆者は斯かる名著翻譯に伴ふ困難と責任とを念ふ毎に、此の書も亦た前著が受けた如き取扱ひ換言すれば「譯文の原文に於ける關係が殆んど理想的なる事」が裏書きされる底の忠實綿密なる譯筆を得べきである、と私かに祈願してゐたのだ。而して大方讀書子の既に知らるるが如く此の業は佐原貴臣教授の譯筆を藉つて實現されたのであつて、「マーシャル産業貿易論」一卷は同教授渡歐直後刊行せられ其の一本また送致せられてわが案頭に在り。同譯書刊行を斯界の爲め久しく待望してゐた自分は先づ、此の刊行に面接して悦びを禁じ得ないものである。ついで瞥見するに其れは、脚註、附録及び

索引を後日に譲」られただけで、原著第三版に據り本文の全部を譯出されたものである、少しく説けば同書本文たる第一編現代の産業及び貿易に關する諸問題の起源、第二編事業組織に關する主要傾向及び第三編獨占的傾向と公共的福利厚生に對して其が有する關係の三篇中に包括せられたる三十五章（六百七十二頁）を補註を除くのほか全譯されたものである。自分はまだ同書を逐一原著につきあはせて通讀せぬものであるが、所る所る例へば序文、第一篇首章及び第三篇末章などを窺ひたる所もてすれば、文章體もてせられた暢達なる譯文は水の如くに停滯するところなく一讀その大體が捉へ得らるるやうに覺えられた。が、ついで名著の翻譯として其は果して遺憾の點なき乎。

六

即ち「譯文に於ける關係の殆んど理想的なる事」が保證さるべき乎、「然るにも拘らず原文の意味は忠實に傳へられてゐる事」が言ひ切り得べき乎と云ふの段にいたると、自分は若干の留保を爲さざるを得ざるの憾みを有つ。其の一は譯筆が暢達簡素を念せられたる餘りにや原著於けるマール博士特有の謹嚴なる筆致を裏付けるところの深玄なる含蓄又は用例辨別の用意とも云ふべきものが充分に現はれてゐない事である。例へば condition とか initiative とか云ふ語は其の場所により注意深く區別して用ひられてるのが閑却せられ、また扉紙及び序文中に *Natura non facit salum.* の標語用ひられ次いで第一篇第一章第二節に *Natura abhorret salum.* の警句用ひられたるは各々「自然は飛躍せず」「自然は自から好んで飛躍せず」と辨別せられて初めて妙味あるを無視せられ、更

に同書自體の標語たらしめられた The One in the Many, the Many in the One は既に前著『經濟學原理』附錄第三「經濟學の範圍及び研究法」第四項中にも現はれ更に同書第一篇第一章第二節中にはまた同一意想もて使用せられ之が意味は其のまま單純に「多の中に一あると共に一の中に多あり」とせらるべきのみに對し今を譯者が態々「特殊即普遍、普遍即特殊」と云ふが如き素と他の意義を有つ成語を拉し來られた如きが之である。其の二は明かに不注意な翻譯とせらるべき箇所のみならず、序文中の一句「渺なからざる事である。いま重要な意義を有する文句について、例示するならば、序文中の一句（原著、第六頁）は「本文に於ける各節標題を蒐集して掲げたる卷頭目次は以つて本書要旨を示すに足るべく」と譯さるべきであり、また最終篇最終章第八節「將來に於ける社會改善の可能性」中に日常生活上の愉悅を増進し且つより高級なる人間の材能を完全に發達せしむるに必要な資源及び機會を漸次全民衆に擴充すべき條件十箇條を舉示したる中其の三（原著、第六六三頁）は「普通教育の標準を高かめ、以つて發達せる機械力もてするも能く遂行せらるべき單なる（筋骨的）作業のみに當り得る如きの成年勞働者を絶無ならしむる事」とせらるべきであり、また同上節結論に近き一節（原著、第六六五頁、譯書第八〇頁）は正さしくマルクス派社會制度革命觀に對する反提言と見らるべく「人間生活狀態を急激に改善するは不可能なり、如何となれば人は環境によつて作らるると共に環境もまた人の作る所たり、而かも人自身は爾かく急速に自から（人の性質本能）を變化せしむる事能はざればなり。然るにも拘らず人は凡べて一層高貴なる生活の機會が一切民衆に與へらるべき遠大なる窮極目標に向つて絶えず着實に前進せざるべからず」と表現せらるべきが如きであらう。而して最後に同譯書が本

文三篇に對する脚註全部の譯出を試みられざりし事を最大の遺憾とする。是れ、縱ひ同書脚註は其の前著原論の其れの如くには切要ならず又た多數且つ長大ならずとは云へ、數ぶ多き英國經濟學文獻中にはだつてマーシャル博士論著を輝かせる其の強味の一つが慥かに其の博引旁證說盡せざるなき補註に横はると信せられるからだ。譯出範圍に於ける遺憾を云爲した序でに附加したきは、同書附録否な其の全部とは云はざるも其の重要なもの例へば同第四「英國マーカンチリストとアダム・スミス」の如き雄篇のみにても譯出せられたなら、同譯書には一層の光彩が添つたことであらうと云ふ一事である。

しかし綜するに、かかる望蜀的提説の假し妥當なるものありとするも、そはマーシャル博士近業の所説を簡潔に紹介せられた、殊に外遊直前推敲の餘裕必すしも豊かならざるうちに克く譯了せられた此の大冊の譯者業績が、爲めに低く評價せらるべき所以とはならぬ。いま自分が此の若干評言を列らねたのも、畢竟此の名著を愛惜するの餘まり而してまた本名著の邦譯が他日一層完美ならしめらるるを祈願するの餘情に出づるのである。

七

翻へり惟ふに、劍橋郊外に不休の讀書思索而して執筆に従はれてる此の老儒の經濟、社會政策上の見解には、眞に生命によりて書かれた眞摯な提言が満ちてゐる。而してかの二大著の標語たらしめた二銘句を其の論攻上の炬光として論盡到達せられた結語こそは、社會改造の業は可能なれども

其の制度改造には人心の改善を伴はざるべからず、人心本能の改善は然るに外來的に一撃もて行はるべきにあらずと爲し、故をもつて一面人間本能を漸次社會的ならしむると共に他面改善せられたる勞働條件と統制せられたる企業自由及び所有權制度との運用をより、高き平準に引上ぐるを刻下の急務なりとするにある。顧みるに同博士を承けて劍橋大學經濟學講座に立てる教授 A. C. Pigou は曾つて其の就任講演中「經濟學に於ける予の最初の興味を示唆せる原因は、理性には存せずして却つて其の後繼者たり其の門弟たるをもつて予の限りなき名譽特權なりと思惟する先生——マーシャル博士の與へられたる人格的靈感なりし」と斷じ、更に經濟學を學ばんとする學徒の動機には種々あるべし、而かも此の門に赴むき來たる若き人々にして「若し彼らが會々倫敦貧民窟をよぎり其の憐むべき同胞を救ふべき何らかの努力を爲すべく衝動せられたるがゆゑに斯學研究を志せりとせらるるならば、そは實に予の最も歡び迎ふる所なり」と高唱したのであるが、果然同教授は其の大きな師匠の宿志を發展させ、今や「厚生經濟學」に「機軸を打開しつつあるのだ。」(Pigou, Economic Science in 1908, pp. 7, 13.) 人間本能の變化は姑らく含く、吾人眼前に見る所の社會惡 social evil を假し細さやかづつなりとも剋服しゆいて社會善 social good を將來せしめんとする社會的熱意が經濟學研究の主動因たり來たるあつて、云ひかへれば經濟政策の社會政策に合體する如きのあるあつて、庶幾くば共產主義的猪進の雄叫びが緩和せられ其處に穩健なる社會改造つみには遂行せられるであらう。厚生經濟學の建立を里標とし社會政策上の歸趨を徹視しつつ經濟純理を講じ經濟政策を論ずるの學風は、かくてマーシャル及び其の後繼者の熱意努力によつて既に門を開かれた、而していま吾等は是れら宿

儒の立つた位置にまでは進み立つ事ができるのだ。で、同博士業績を述べけ其れより一步半歩なりを前進せしむべき精進をば經濟學徒悉く示めし來るべきを高調すべく、既掲ビグー教授の講演結語を誦し以つて本文に筆を擱くであらう。「輓近に入つて經濟學は大なる發達を遂げた、いま予は其の研究に於ける最も偉大なる先達たりし、否な現に指導者たるところの一巨人の椅子を襲ふ。なさるべき眞の且つ生ける仕事は實に其處にある。過去に於けるが如くに將來に於いても我が劍橋學生同窓中、其の學問其の仕事を進歩せしむべき熱心而して有力なる人の多かるべきは、予の確信して疑はざるところである」。(マーシャル博士第八十誕辰より滿一年後なる一九二三年七月二十六日稿了。)